

幼少期キャンプ参加者の父親の意識と期待

安倉 実友子 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)
指導教員 中野 友博

キーワード：幼少期キャンプ，父親，養育態度

1. 序論

自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われる。そのためには、幼児が自然とのかかわりを深めることができるように工夫する事が大切である¹⁾。母親の育児不安やキャンプへの期待についての研究はされているが、父親の研究は少ない。

本研究では、子どもの自然体験に対してどのような意識を持っているのか、幼少期キャンプ参加者の父親の養育態度と父親自身の過去の経験を関連づけて、幼少期キャンプへの期待について明らかにする事を目的とする。

2. 研究方法

1) 被験者

被験者は、2012年の7月29日、8月6～9日の2回にわたって実施された「びわこ・ちびっこキャンプ2012」参加者25名の父親にアンケート調査を実施し、そのうちアンケート用紙が回収できた24名を対象とした。

2) 調査方法

親の養育態度尺度(2因子16項目)、父親自身の子どもの頃の自然体験について(9項目)キャンプへの期待(6項目)に関する調査用紙を作成しアンケート調査を実施し、それぞれ得点を算出した。

3. 結果と考察

1) 父親の養育態度

父親の養育態度を、幼児と児童の因子別にノンパラメトリック検定(Mann-WhitneyのU検定)を行った結果、たくさんのことに興味や関心を持たせ、子どものためにいいと思うことを強制する統制因子では1%水準で有意な差が見られたが、子どもの意図をできる限り充足させようという応答性因子では有意な差はみられなかった。

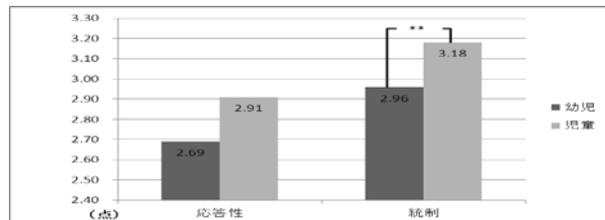


図1：父親の養育態度因子別得点 **p < .01

これらのことから、子どもの成長段階に合わせて養育態度が変化していくため、幼児と児童の統制因子に有意な差が見られたと考えられる。

2) 父親の過去の自然体験

父親の自然体験に関する項目について、全9項目に対し父親の70%以上が「何度もある」「少し

ある」と回答している。しかし、全国平均²⁾では、全項目に対し「何度もある」「少しある」と回答した保護者が60%だったことから、キャンプ参加者の父親は、父親自身の過去の自然体験が全国平均よりも高く、より子どもの自然体験活動に関心があるのではないかと考えられる。

3) キャンプに期待していること

キャンプ参加者の父親がキャンプに最も期待していることは、「自立心・自主性のため」46%、「自然に興味を持ってほしい」25%であった。また父親個人の因子別得点を高低分類した。応答的な態度をとりながらも、しつけなどの統制をより効果的に用いる「権威的態度」、一方的な力中心の養育態度である「権威主義的態度」、応答的な態度をとり社会的に望ましい行動を示す「許容的態度」の3つの養育態度に分類したところ、「健康で丈夫な体を作る」ことを期待している父親は権威的態度な養育態度の父親だけであったことから、父親の養育態度についての考え方の違いで、キャンプへの期待に違いが生まれるのではないかと考えられる。また、「友達をつくる」ことを期待している父親は権威主義的態度の父親のみだった。これは、父親が子どもにとって良いと思う行動から、対人関係への期待に繋がっていると言える。

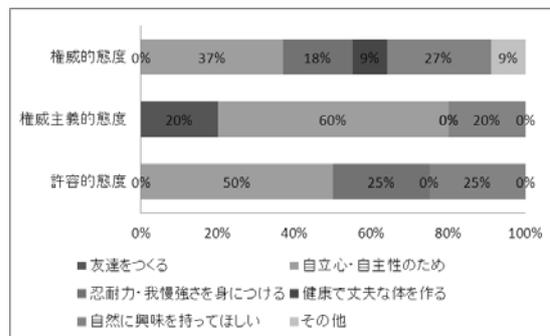


図2：父親の養育態度別キャンプへの期待

4. まとめ

子どもの年齢により、父親の養育態度に偏りがある。キャンプ参加者の父親は、父親自身の過去の自然体験活動が豊富であったため、子どもの自然体験活動に関心があると考えられる。また、キャンプに「自立心・自主性のため」を最も期待している。

引用文献

- 1) 文部科学省・厚生労働省(2008)：幼稚園指導要領 保育所保育指針、pp9-25
- 2) 青少年教育活動研究会(1999)：子どもの体験活動等に関するアンケート調査報告書